

お知らせ:次回発信日は1月23日週報(予定)

Jミルクが2024年9月27日に公表した「需給見通し(※2024年8月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・11月の生乳需給実績について、生乳生産量は、前年同期比+1.8%と4カ月連続で上回った。地域別に見ると北海道では+3.3%と4カ月連続で前年超え、都府県は▲0.3%と5カ月連続で前年割れとなった。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から12月下旬まで5カ月連続で前年水準を上回っている。一方、都府県は6月中旬から12月下旬まで前年割れとなっているものの、減少率は縮小傾向で推移。このため、全国の受託乳量は9月下旬以降、前年水準を上回っている。11月の牛乳の生産量は、乳価改定から一巡した影響もあり+1.3%と3カ月連続で前年水準を上回った。一方、成分調整牛乳や乳飲料は低調でいずれも前年割れ。はっ酵乳は、春ごろから回復基調で推移しており11月は+9.0%と今年度の最高の伸び率を示した。このため、生乳の飲用等向処理量は+1.3%増と2カ月連続で前年水準を上回っている。

・脱脂粉乳の11月の生産量は+5.3%と拡大幅は縮小したものの4カ月連続で前年超え。推定出回り量は、前年同月に比べて在庫低減対策数量の低下もあり▲22.8%と5カ月連続で前年割れとなった。単月での脱脂粉乳需給は供給量が需要量をわずかに上回ったものの、月末在庫量は47.6千ト(▲5.2%)と26週連続で前年水準を下回り、3か月連続で4万ト台となった。バターの生産量は+12.8%で、推定出回り量は+11.2%。国家貿易による輸入売渡分(約2.3千ト)を考慮すると、在庫量は23.5千ト(+9.0%)と、3カ月連続で前年水準を上回った。

・牛乳類の12月の販売動向について、4品目すべて前年水準を下回った。気温が例年より低い期間が続いたことに加え、年末年始が最大9連休となった影響などで家庭内消費が押し下げられたと推察される。年明け移行も肌寒い日が続く、北日本などでは大雪に見舞われたため、直近(1/6週)の販売動向は、牛乳が前年比▲1.3%と伸び悩んでいる。他の品目も前年割れとなり、牛乳類トータルは▲2.5%となった。

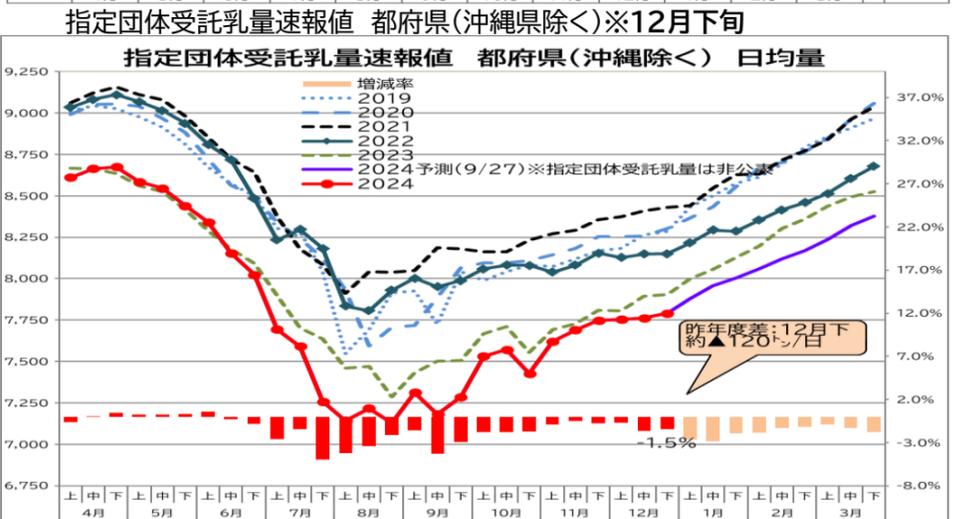
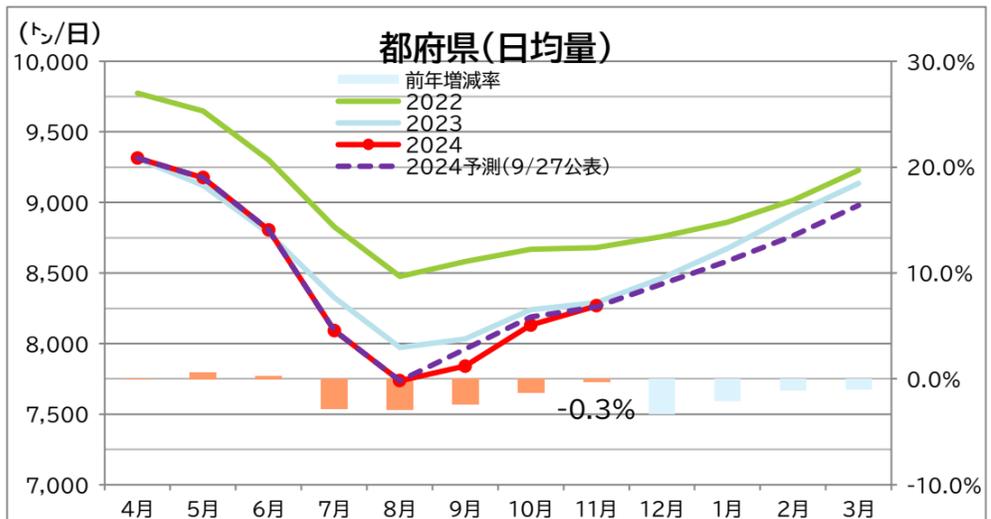
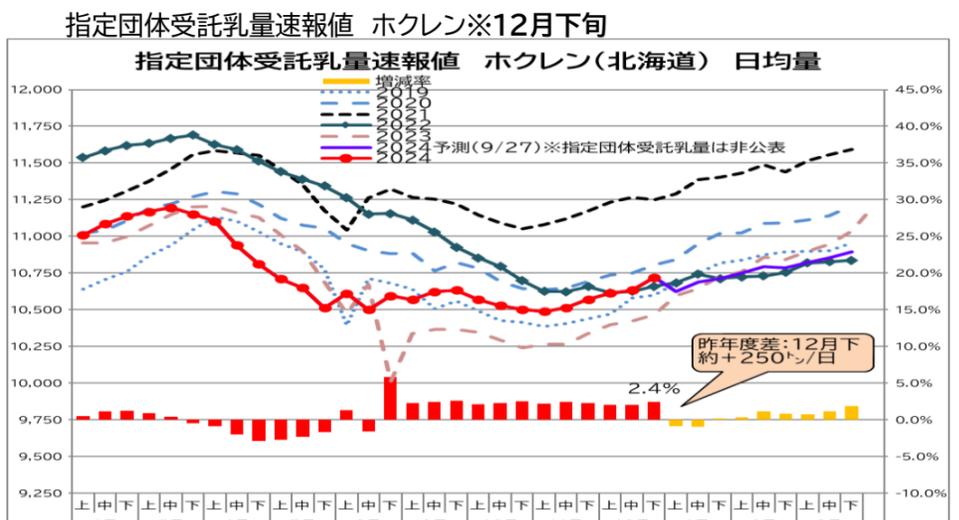
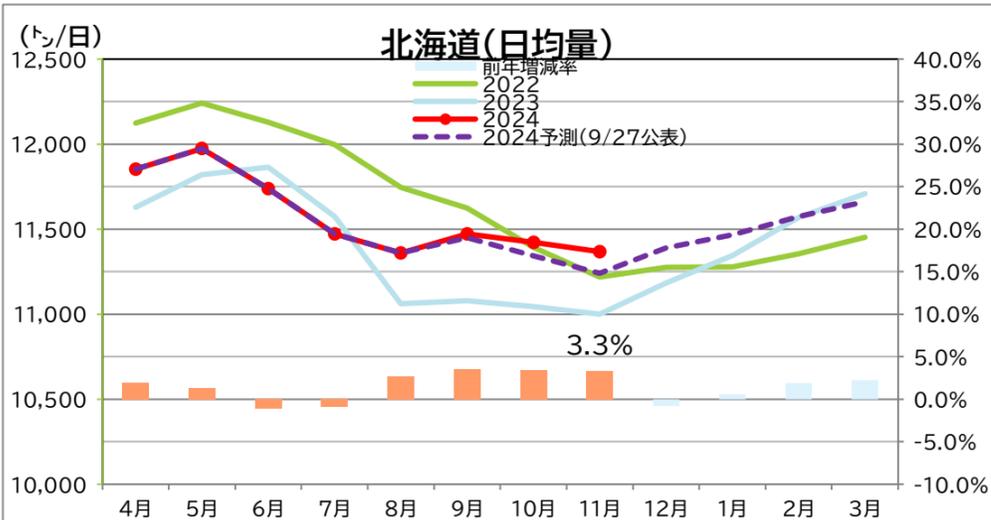
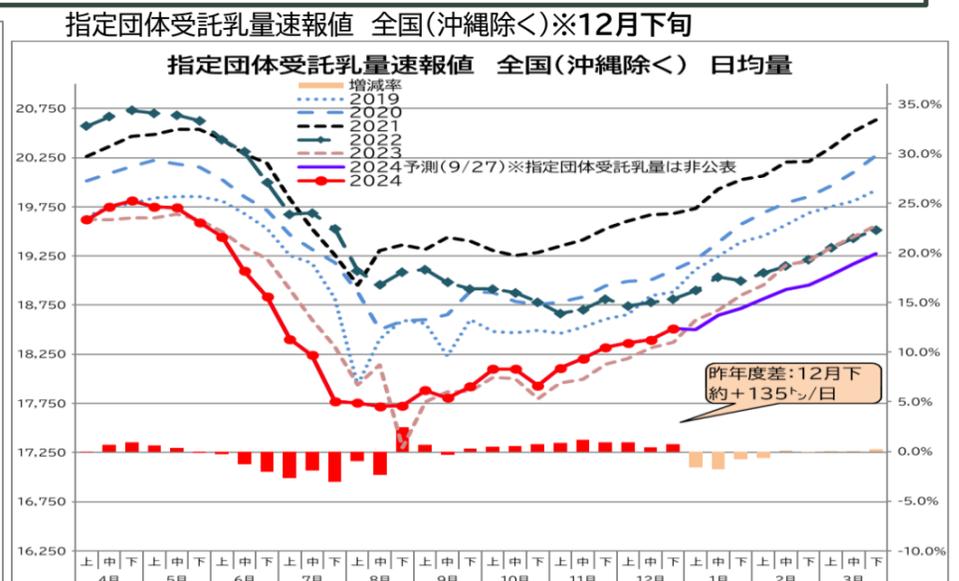
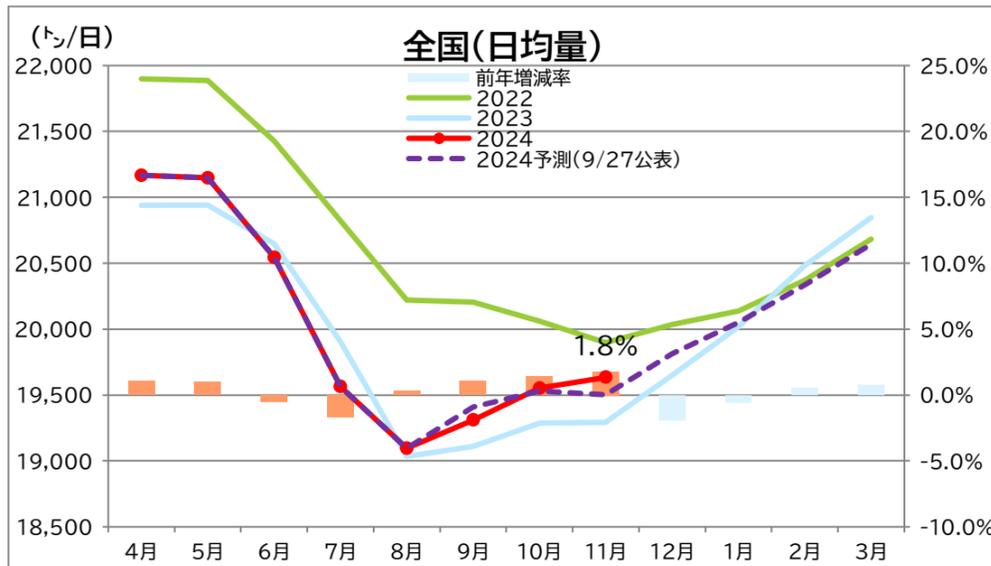
・はっ酵乳は、3品目すべてのカテゴリーが前年水準を上回った。3品目いずれも前年越えとなるのは9週連続。特に、ドリンクタイプは販売単価が上昇傾向にあっても消費が増え、販売個数は4週連続で2ケタ増となっている。大容量タイプも好調を維持し、17週連続で前年水準を上回った。家庭用バターの販売個数は12月の需要期からピークアウトし、1/6週は3週ぶりに前年水準を下回った。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の生乳生産量は、全国589.0千ト(前年同月比101.8%)、北海道341.0千ト(同103.3%)、都府県248.0千ト(同99.7%)。

(2)9月に公表したJミルク予測値(全国585.0千ト、北海道337.2千ト、都府県247.8千ト)との比較は北海道が上振れした一方、都府県はほぼ同水準となった。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が12月下旬(最新、以下同)で同100.8%、都府県(沖縄除く)が同98.5%、北海道は同102.4%となった。

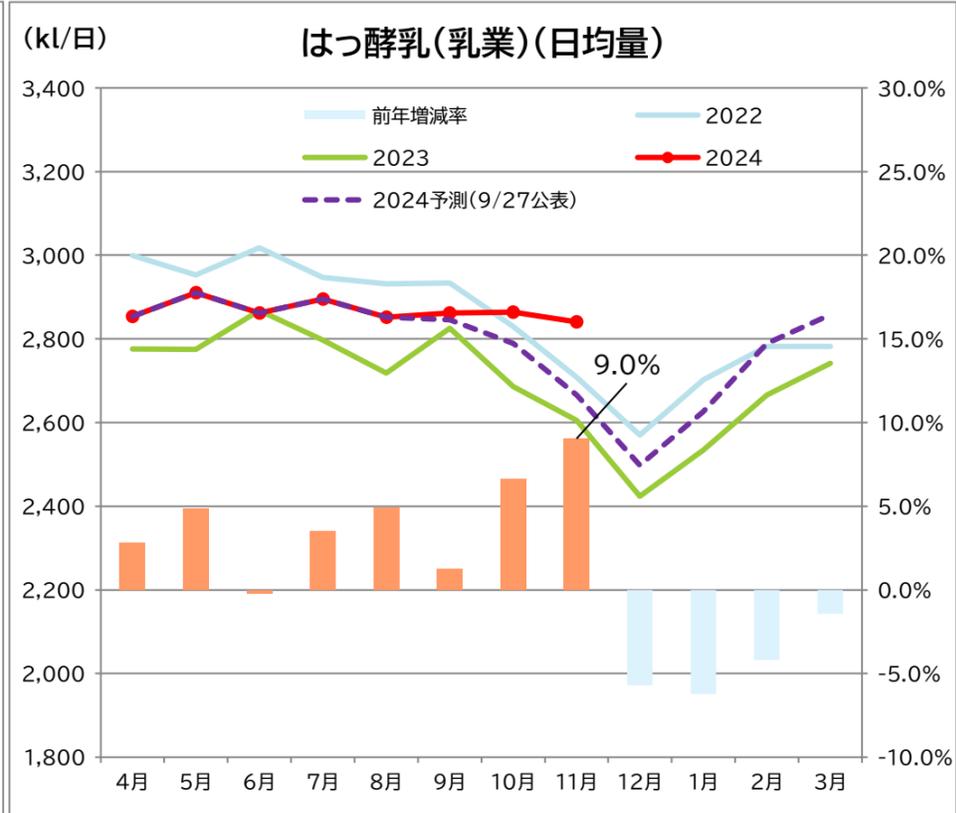
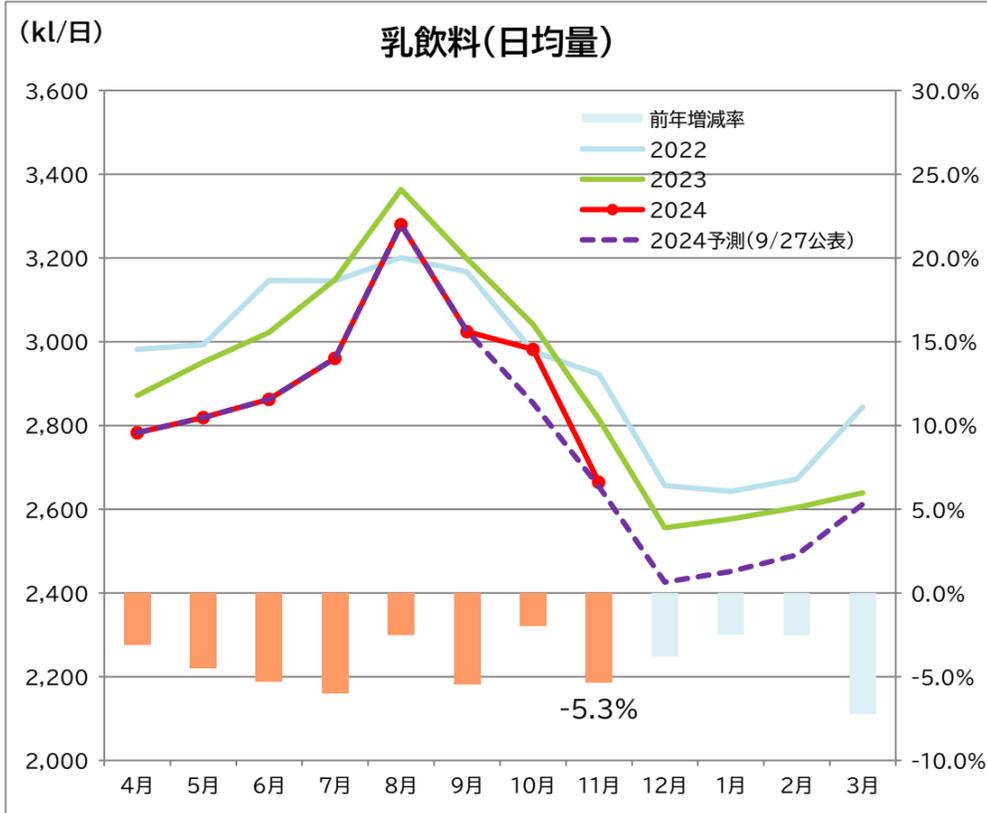
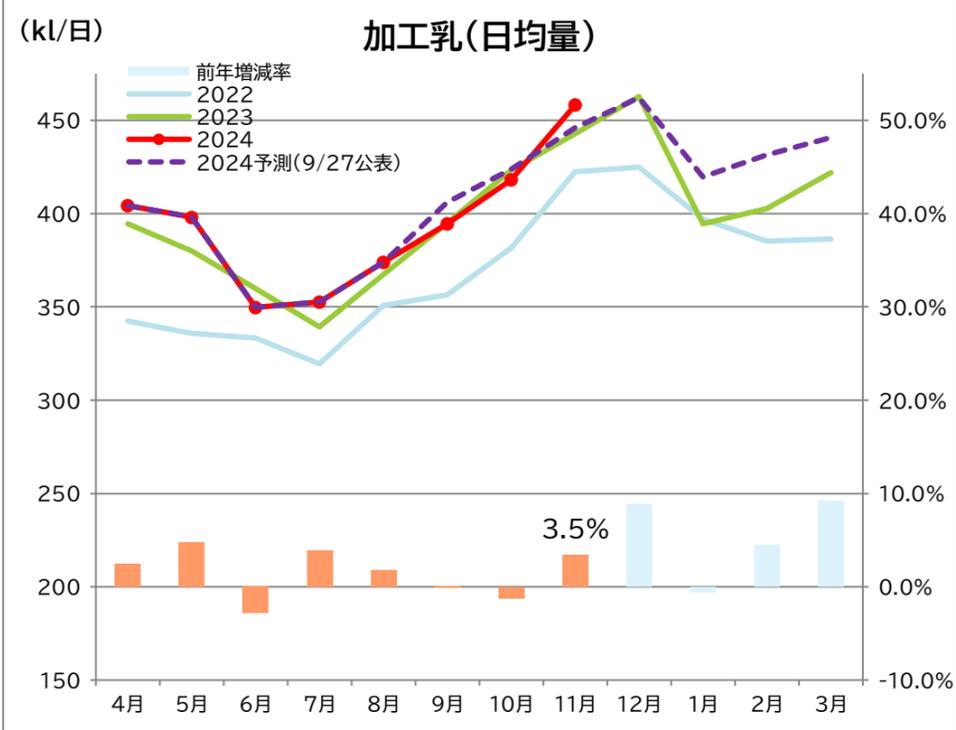
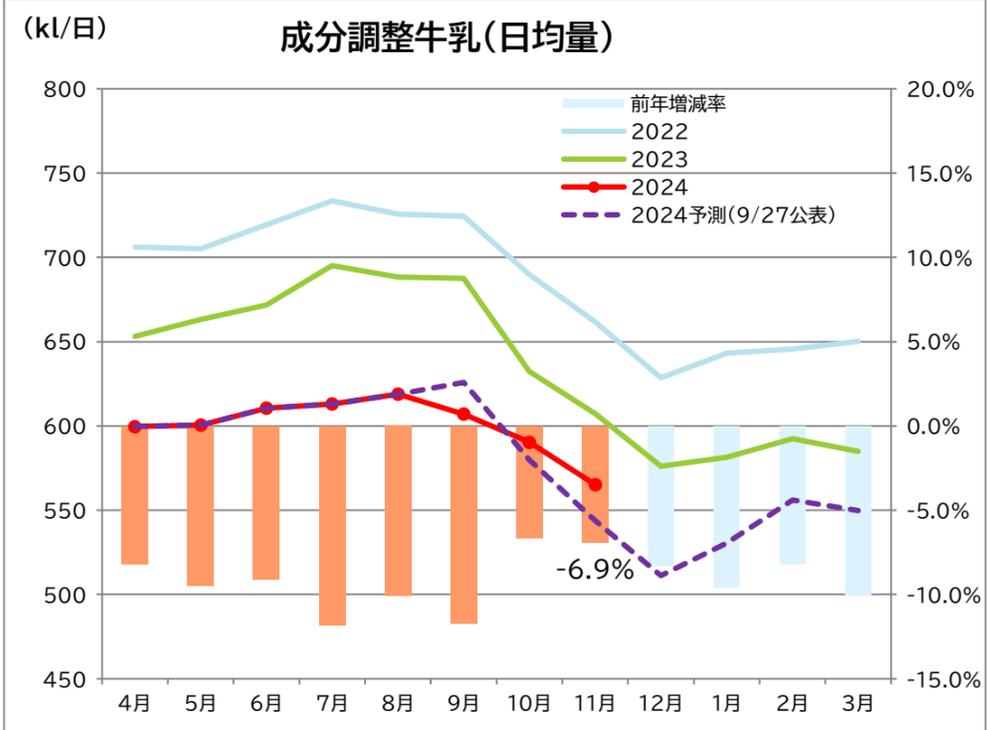
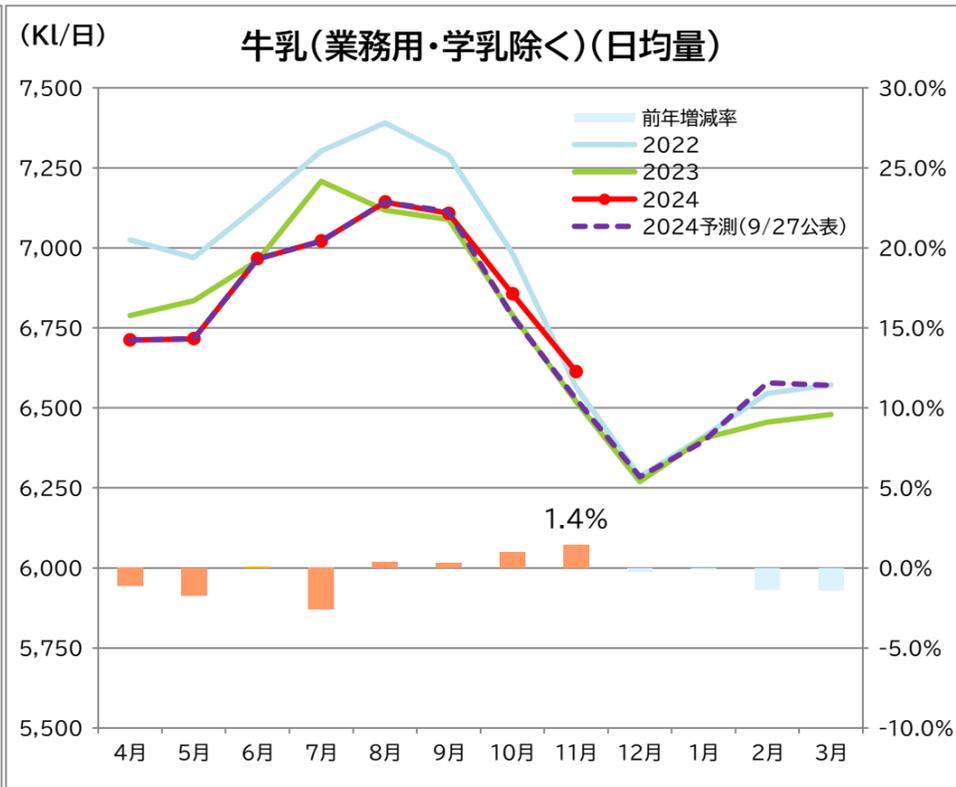
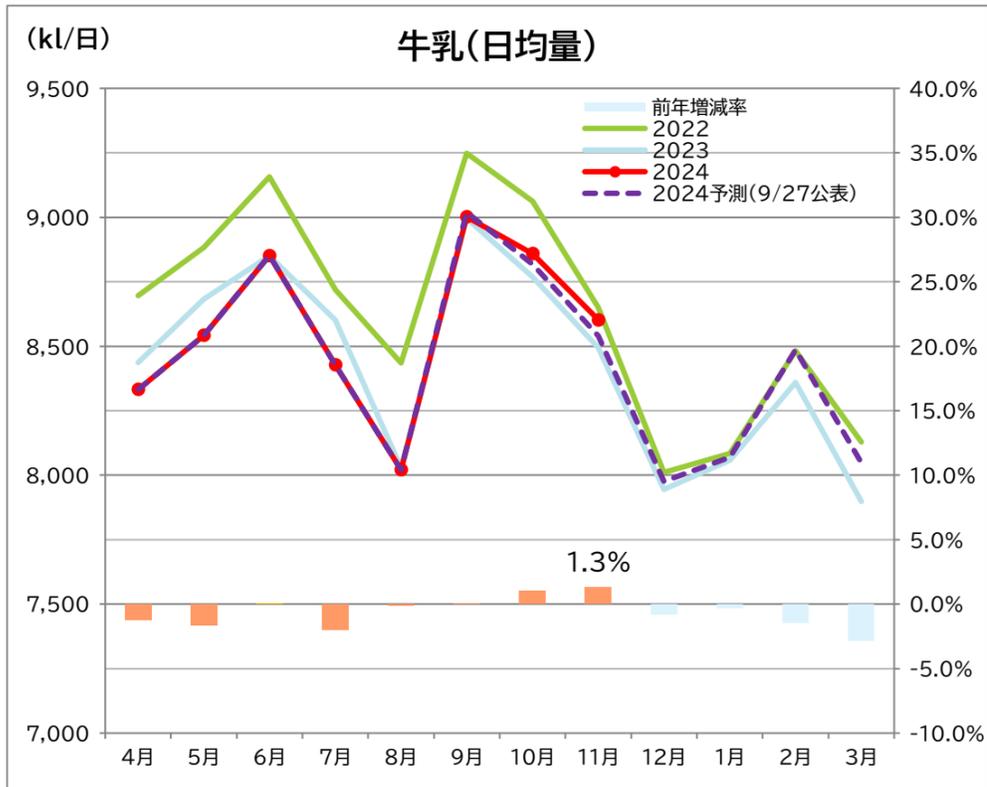


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の牛乳等生産量は、牛乳258.1千kl(前年同月比101.3%)、成分調整牛乳17.0千kl(同93.1%)、加工乳13.7千kl(同103.5%)、乳飲料79.9千kl(同94.7%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、368.7千kl(同99.5%)となり、24カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.4%、「業務用」は同101.2%、「学乳」は100.4%。

(3)はっ酵乳(乳業)は85.2千kl(同109.0%)と5カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:10月実績)は100.2%となった。

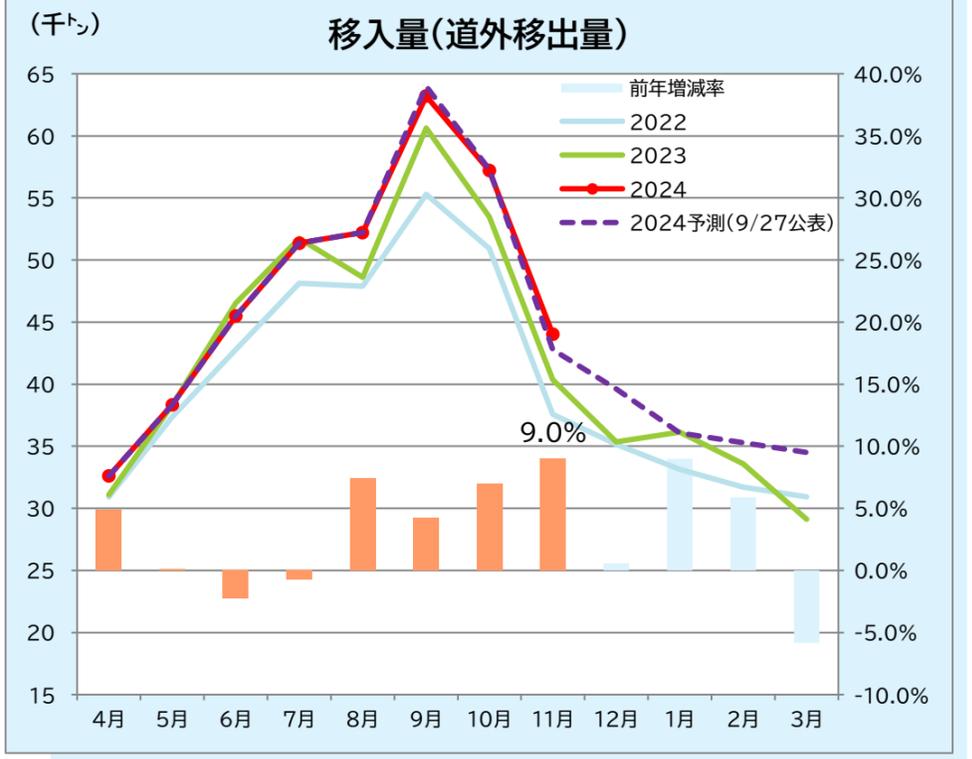
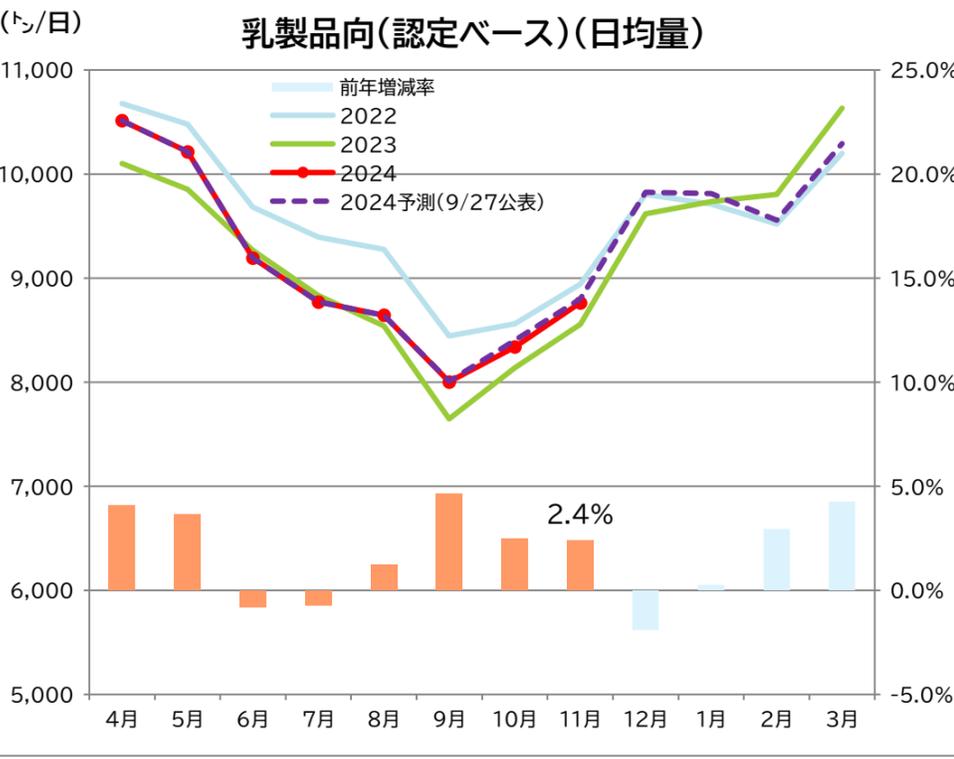
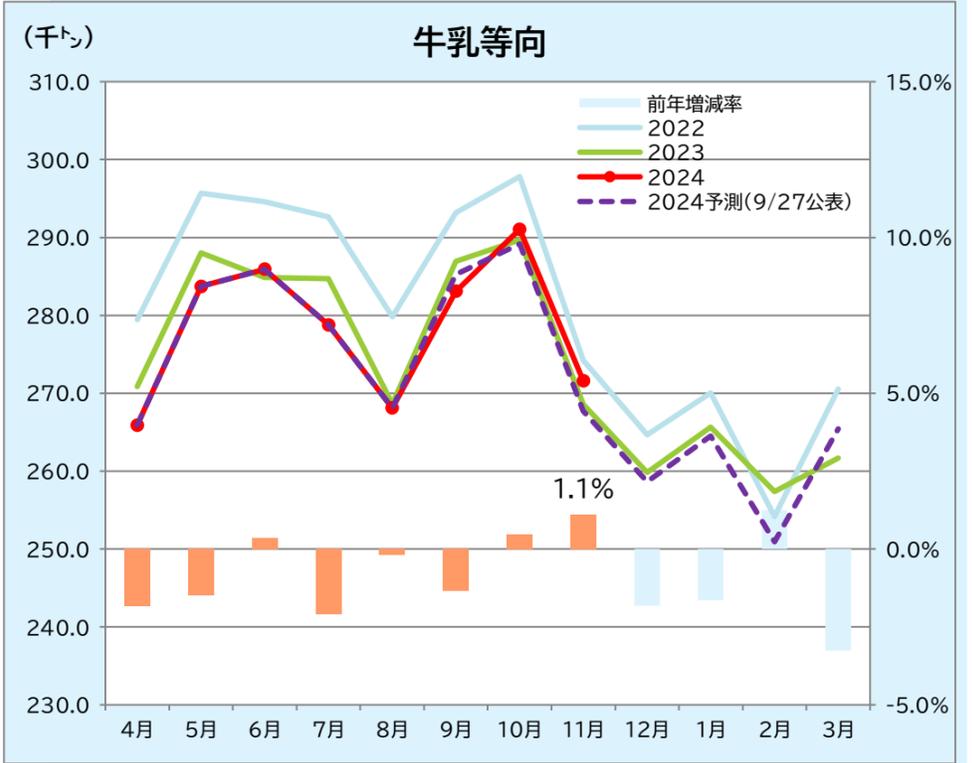
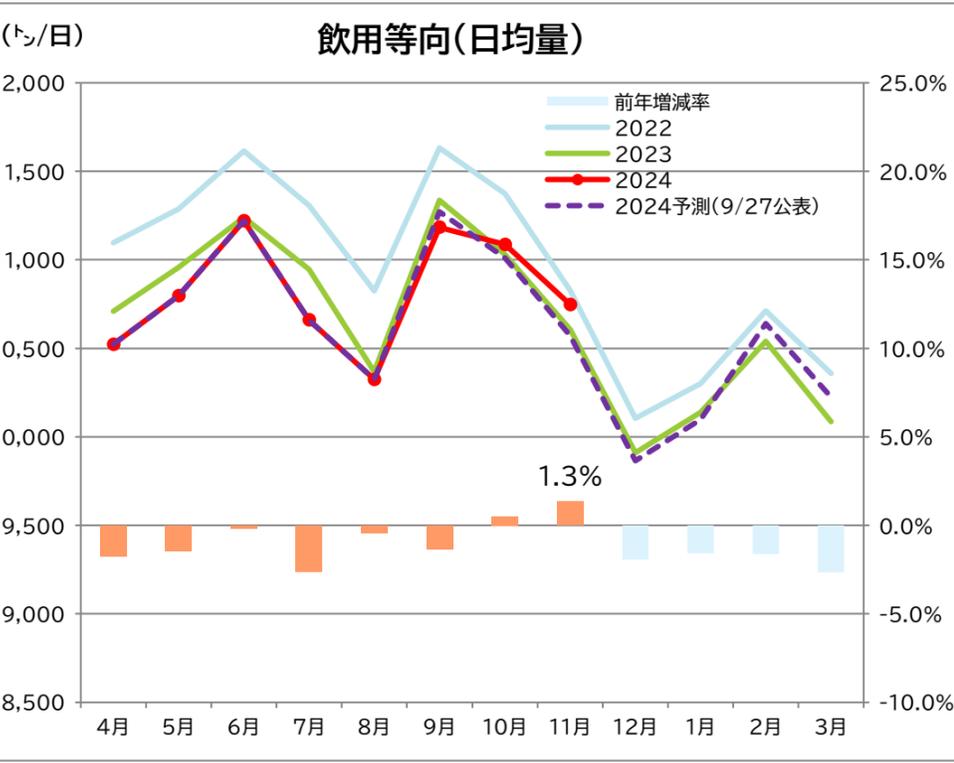
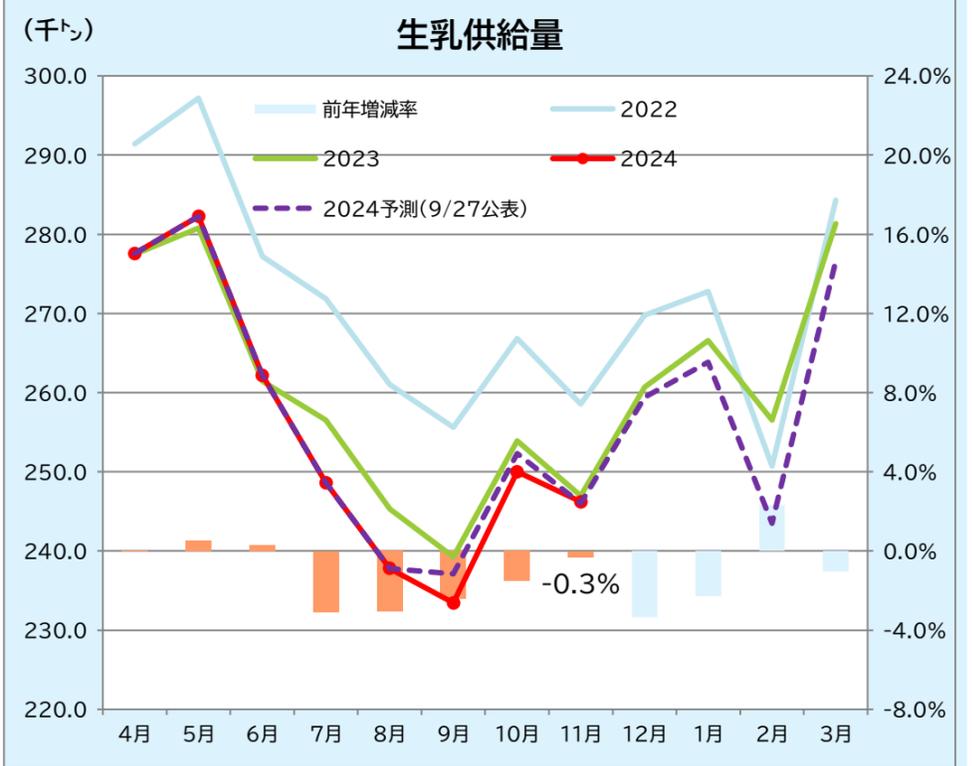
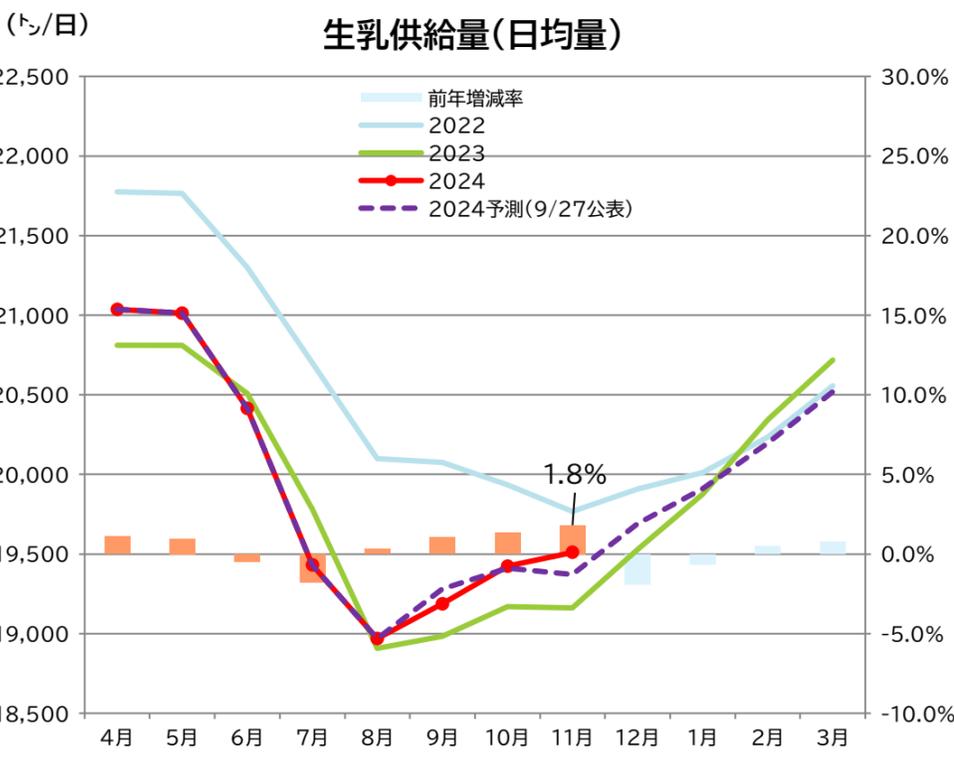


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の生乳供給量は585.3千ト(前年同月比101.8%)、飲用等向322.4千ト(同101.3%)、乳製品向(認定ベース)262.9千ト(同102.4%)。  
 (2)飲用等向が2か月連続で前年を上回ったが、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も前年を上回った。  
 (3)9月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:581.1千ト)は上振れ、飲用等向(予測値:317.1千ト)も上振れし、乳製品向(予測値:264.0千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)11月は、生乳供給量246.2千ト(前年同月比99.7%)、牛乳等向271.6千ト(同101.1%)。  
 (2)北海道からの移入量については44.0千ト(同109.0%)と前年を上回った。  
 (3)9月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:246.0千ト)はほぼ同水準、牛乳等向(予測値:267.7千ト)は上振れ、移入量(予測値:42.8千ト)も上振れとなった。



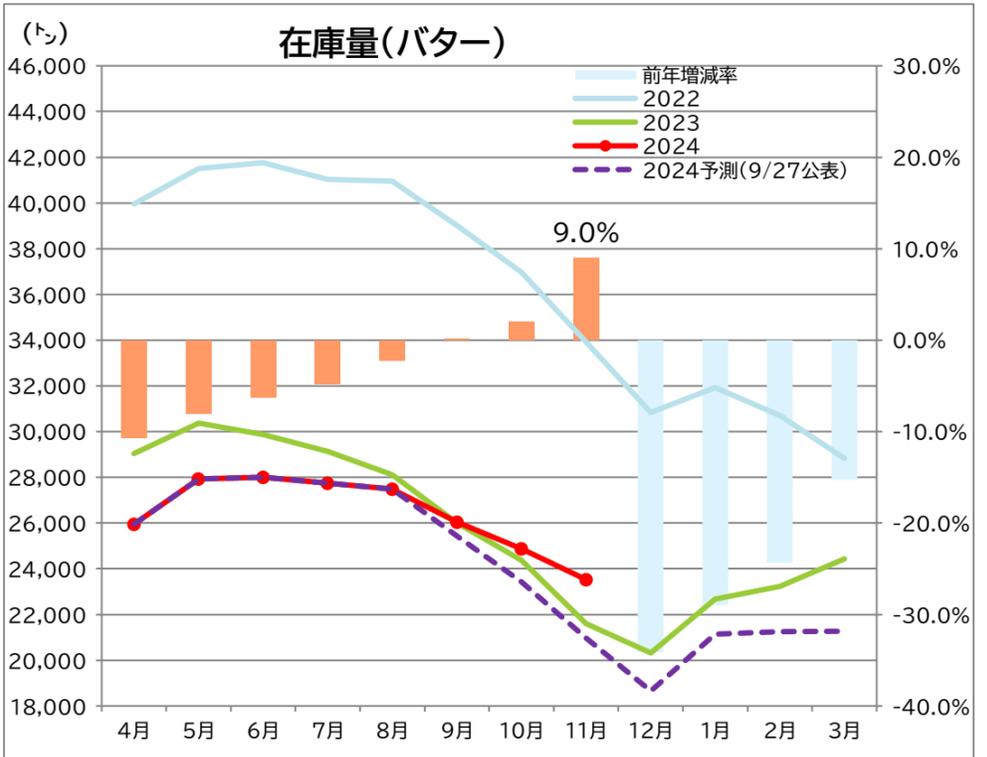
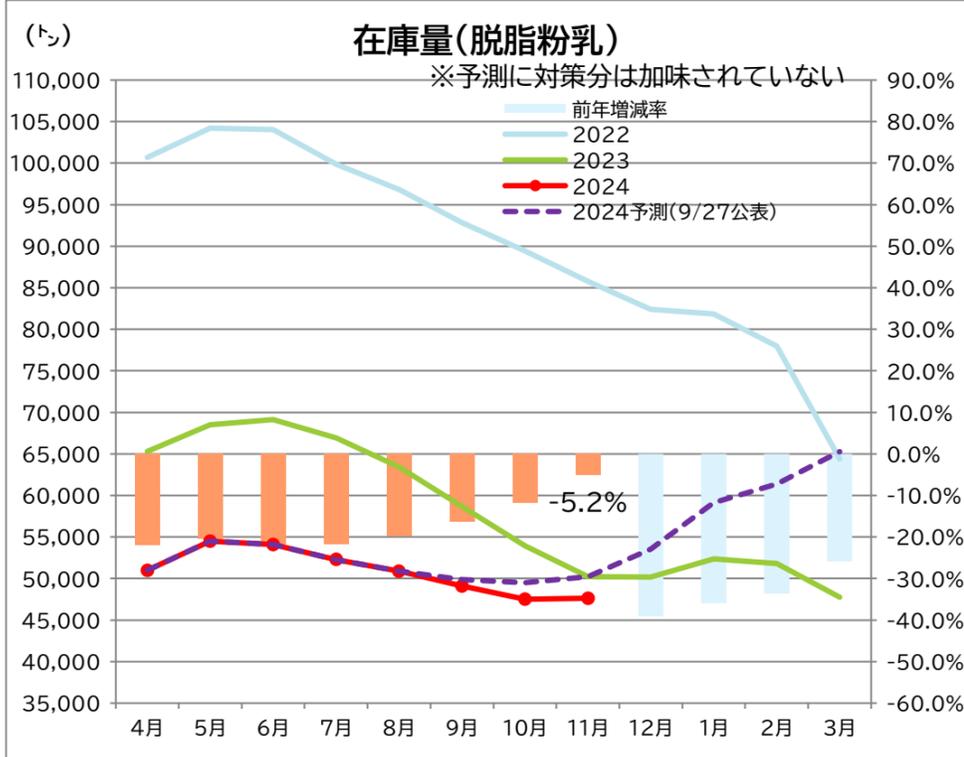
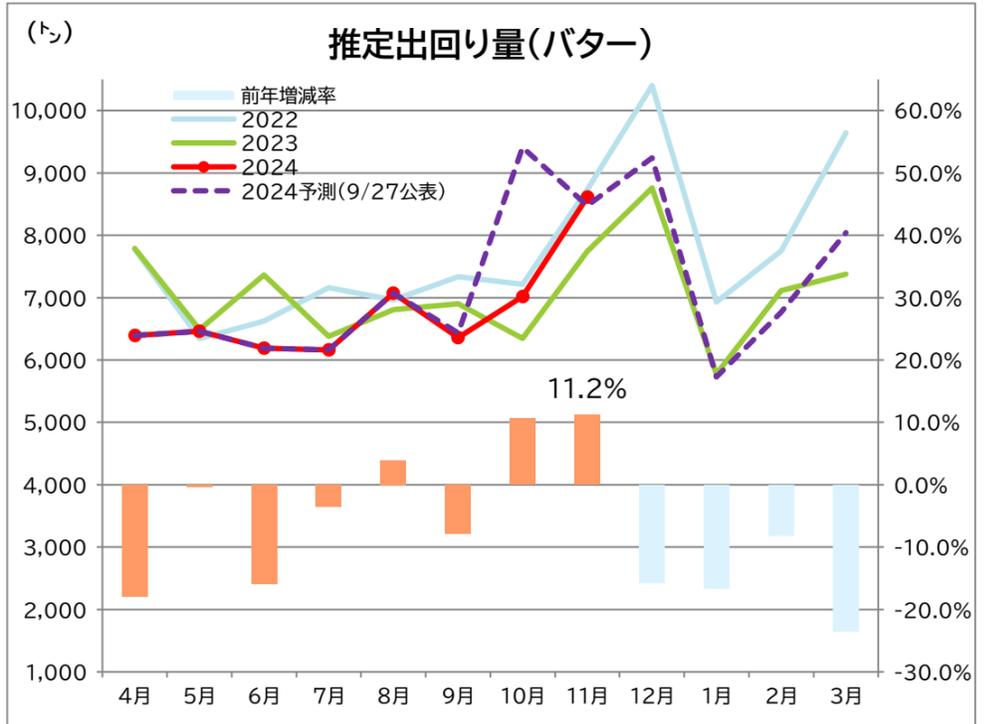
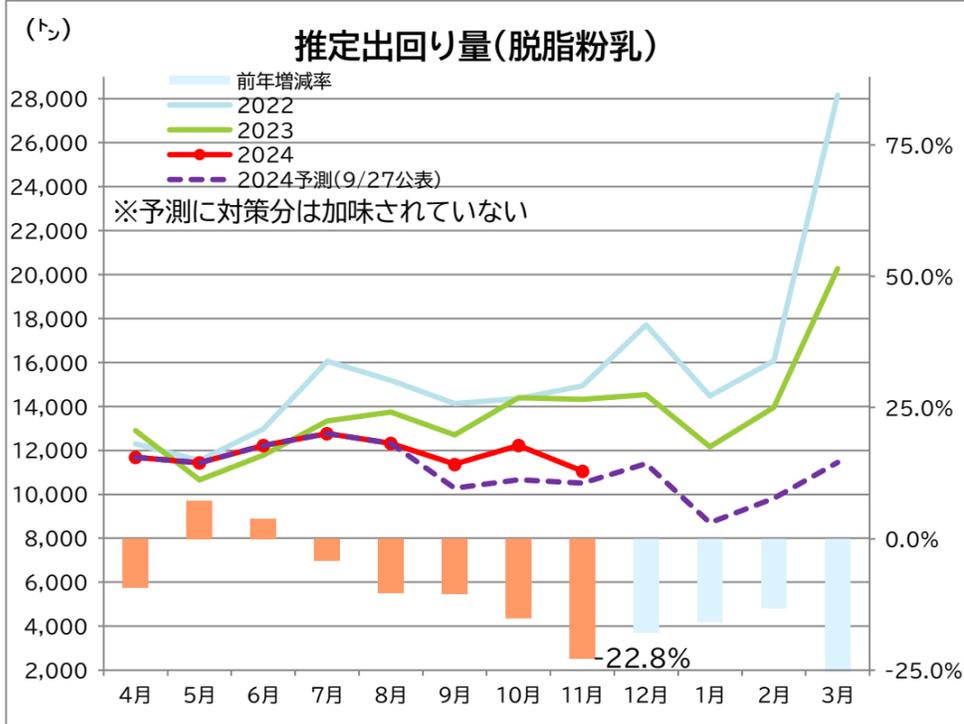
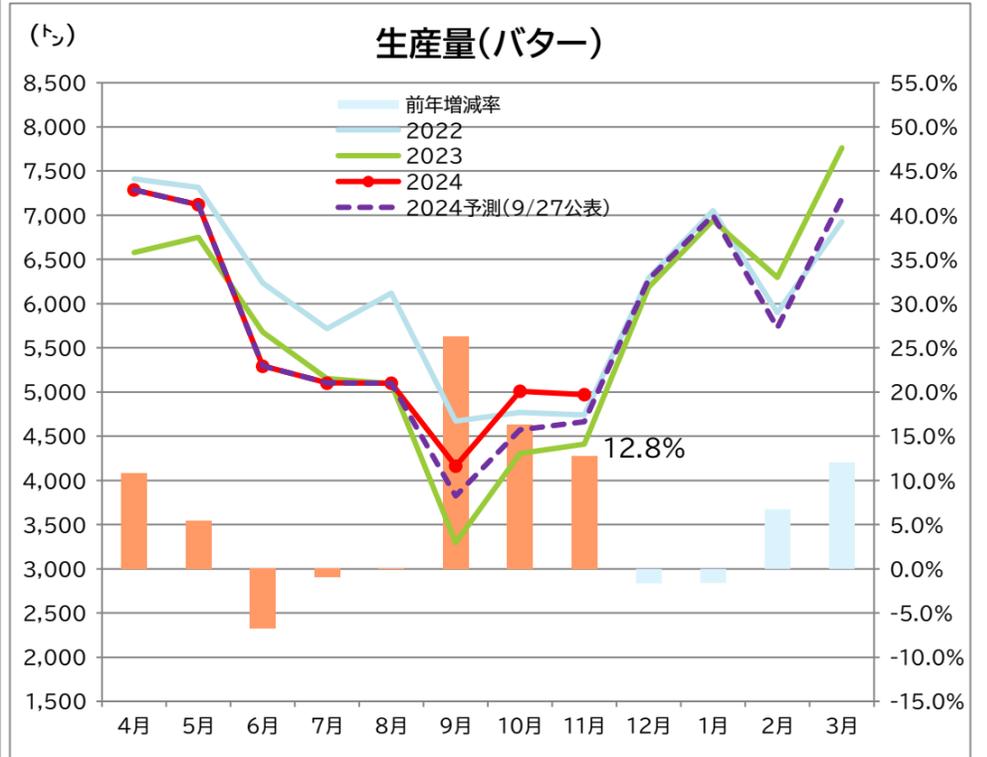
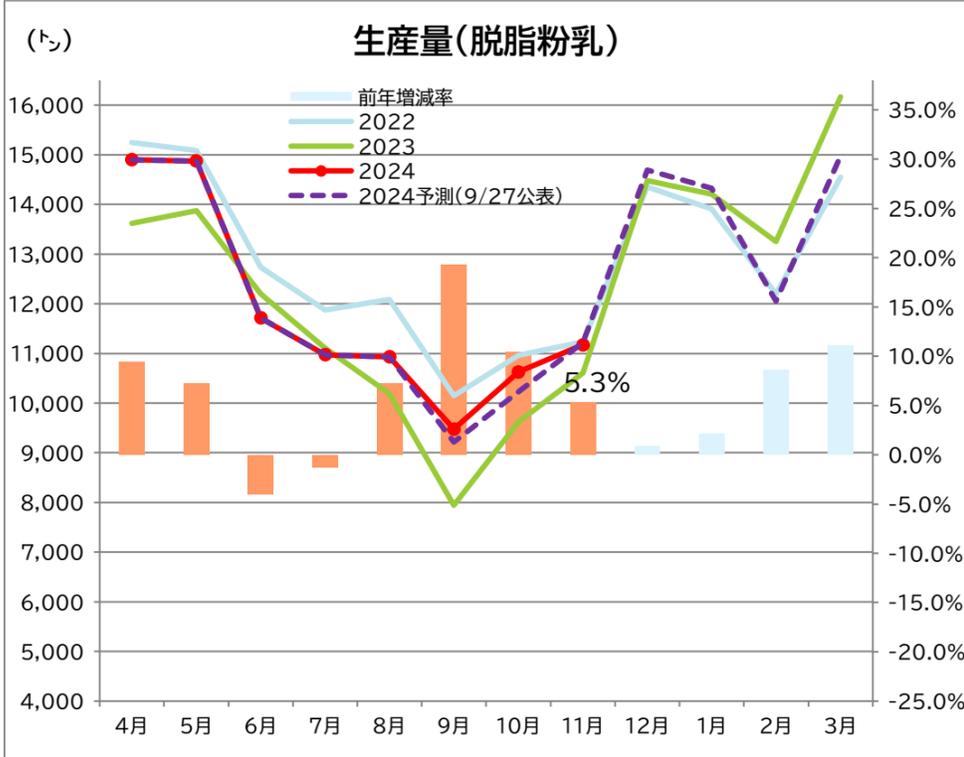
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、11月の生産量は11.2千ト(前年同月105.3%)、推定出回り量は11.1千ト(同77.2%)となった。出回り量が生産量をわずかに下回ったため、在庫量は前月から0.1千ト程度増加し、47.6千ト(同94.8%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱パ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には約8年振りに4万ト台となっていた。その後、4月に5万ト台となったが9月は5か月ぶりに4万ト台に戻り、11月は3か月連続で4万ト台となった。

※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、11月の生産量は5.0千ト(同112.8%)、推定出回り量は8.6千ト(同111.2%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは4か月連続。国家貿易による輸入売渡分(約2.3千ト)も考慮すると在庫量は前月から約1.4千ト減少し23.5千ト(同109.0%)となった。在庫量は3か月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)12月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比99.6%、成分調整牛乳:同95.5%、加工乳:同98.4%、乳飲料:同92.8%。牛乳類全体:同98.3%

【参考】2022年12月比…牛乳:96.5%、成分調整牛乳:78.8%、加工乳:101.0%、乳飲料:90.6%(牛乳類トータル:94.4%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1/6週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.7%、成分調整牛乳:同95.5%、加工乳:同97.1%、乳飲料:同92.0%。牛乳類トータルでは同97.5%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

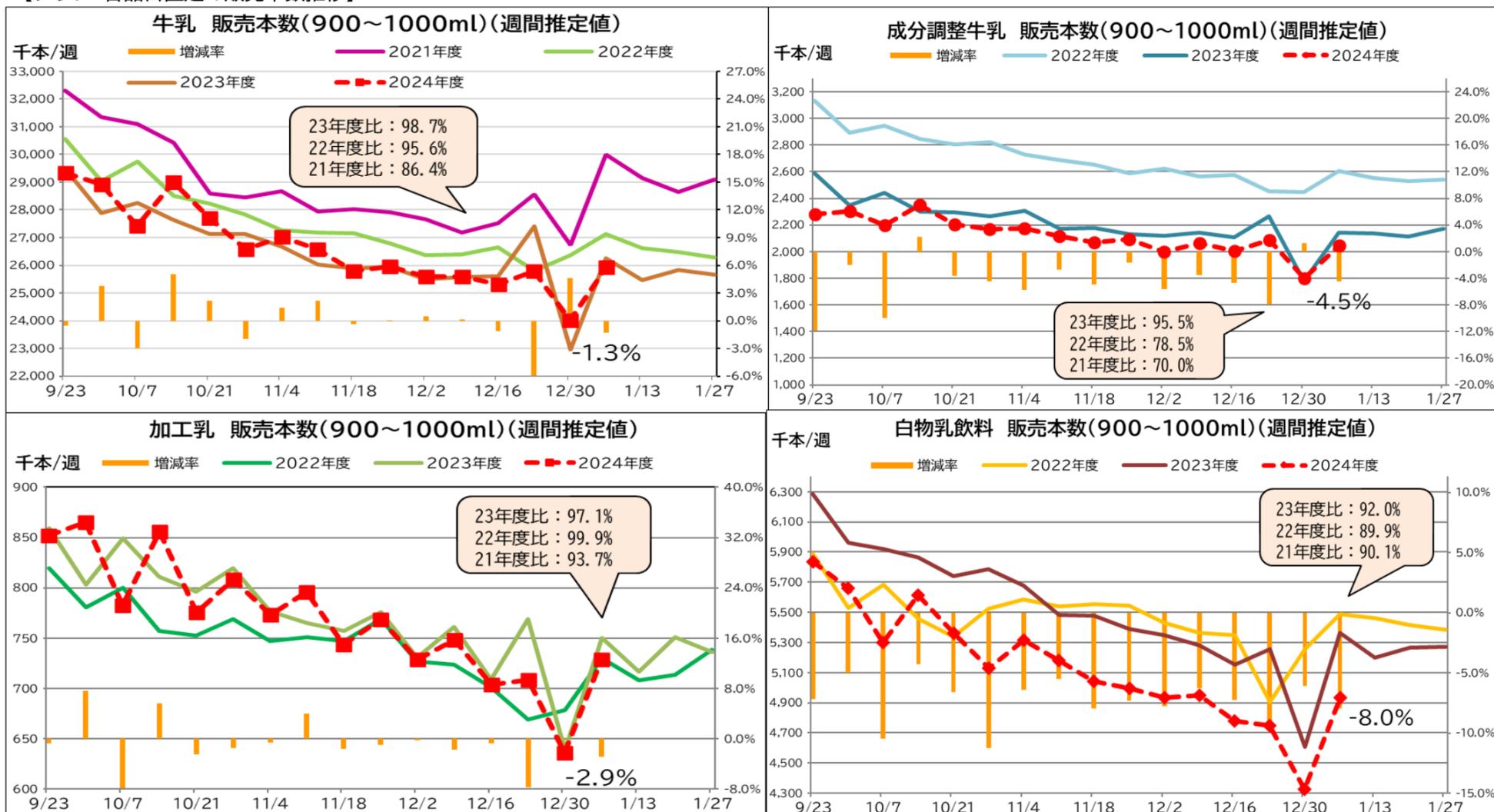
単位:千個、円

品目	区分	2024/7-	2024/8-	2024/9-	2024/10-	2024/11-	2024/12-	2024/12- 2022/10価格差	2024/12- 2023/3価格差	2024/12- 2023/7価格差
		販売個数	168,873	175,296	165,980	161,140	147,094	149,786		
トータル	販売個数前年比	95.3	99.1	97.6	98.6	98.9	98.3	33.2	18.1	16.3
	販売単価	216.0	216.8	216.1	216.0	215.8	216.3			
牛乳	販売個数	129,480	135,341	127,378	123,650	112,767	115,582			
	販売個数前年比	95.4	100.7	99.3	100.3	100.5	99.6	35.0	18.7	17.9
成分調整牛乳	販売個数	10,098	10,338	9,883	9,938	9,065	9,170			
	販売個数前年比	84.3	89.9	90.6	95.4	96.0	95.5	32.4	16.7	13.2
加工乳	販売個数	3,823	3,831	3,646	3,568	3,311	3,280			
	販売個数前年比	109.2	107.8	101.5	97.7	100.4	98.4	29.0	19.3	8.3
乳飲料	販売個数	25,472	25,786	25,073	23,984	21,951	21,754			
	販売個数前年比	97.7	94.0	92.0	91.8	92.2	92.8	23.9	13.3	9.6
	販売単価	173.1	173.3	172.8	173.0	172.7	173.4			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	11.18-	11.25-	12.2-	12.9-	12.16-	12.23-	12.30-	1.6-	25.1.6- 22.10.24 価格差	25.1.6- 23.3.20 価格差	25.1.6- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,653	33,825	33,269	33,366	32,798	33,332	30,795	33,631		
トータル	販売個数前年比	98.1	98.8	98.7	98.9	97.7	93.4	102.6	97.5	33.3	18.4	16.0
	販売単価	215.9	215.6	216.0	215.9	216.1	217.3	217.5	216.5			
牛乳	販売個数	25,796	25,966	25,605	25,606	25,309	25,785	24,031	25,923			
	販売個数前年比	99.6	100.1	100.4	100.1	98.9	94.1	104.6	98.7	35.3	19.0	17.8
成分調整牛乳	販売個数	2,068	2,095	2,002	2,064	2,007	2,088	1,801	2,047			
	販売個数前年比	95.0	98.4	94.4	96.4	95.3	92.1	101.2	95.5	32.1	17.2	12.6
加工乳	販売個数	744	769	729	748	704	709	636	729			
	販売個数前年比	98.4	99.0	99.8	98.3	99.3	92.3	99.6	97.1	27.8	17.5	6.9
乳飲料	販売個数	5,044	4,996	4,933	4,949	4,778	4,749	4,327	4,932			
	販売個数前年比	92.1	92.7	92.2	93.7	92.8	90.3	93.9	92.0	23.3	13.5	8.8
	販売単価	172.7	172.6	173.4	173.0	173.1	174.0	172.9	173.0			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(1/6週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比110%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同105%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回る推移となっている。(3品目合計前年同期比105%以上)。

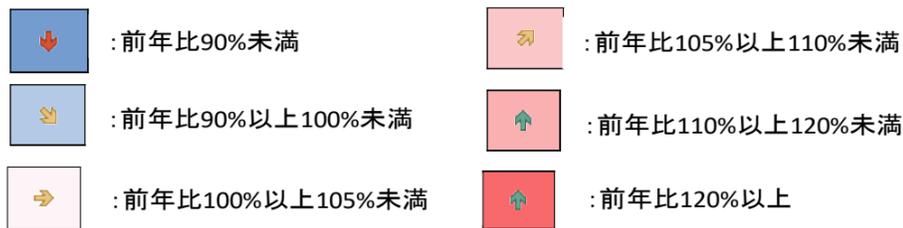
(2)販売個数について、前週(12/30週)との比較では、3品目すべて増加した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	11.18-	11.25-	12.2-	12.9-	12.16-	12.23-	12.30-	1.6-
ドリンクタイプ	→	→	→	→	↑	↑	↑	↑
個食タイプ	→	→	→	→	↗	→	→	→
大容量タイプ	↑	↑	↗	↗	↗	↗	↗	↗



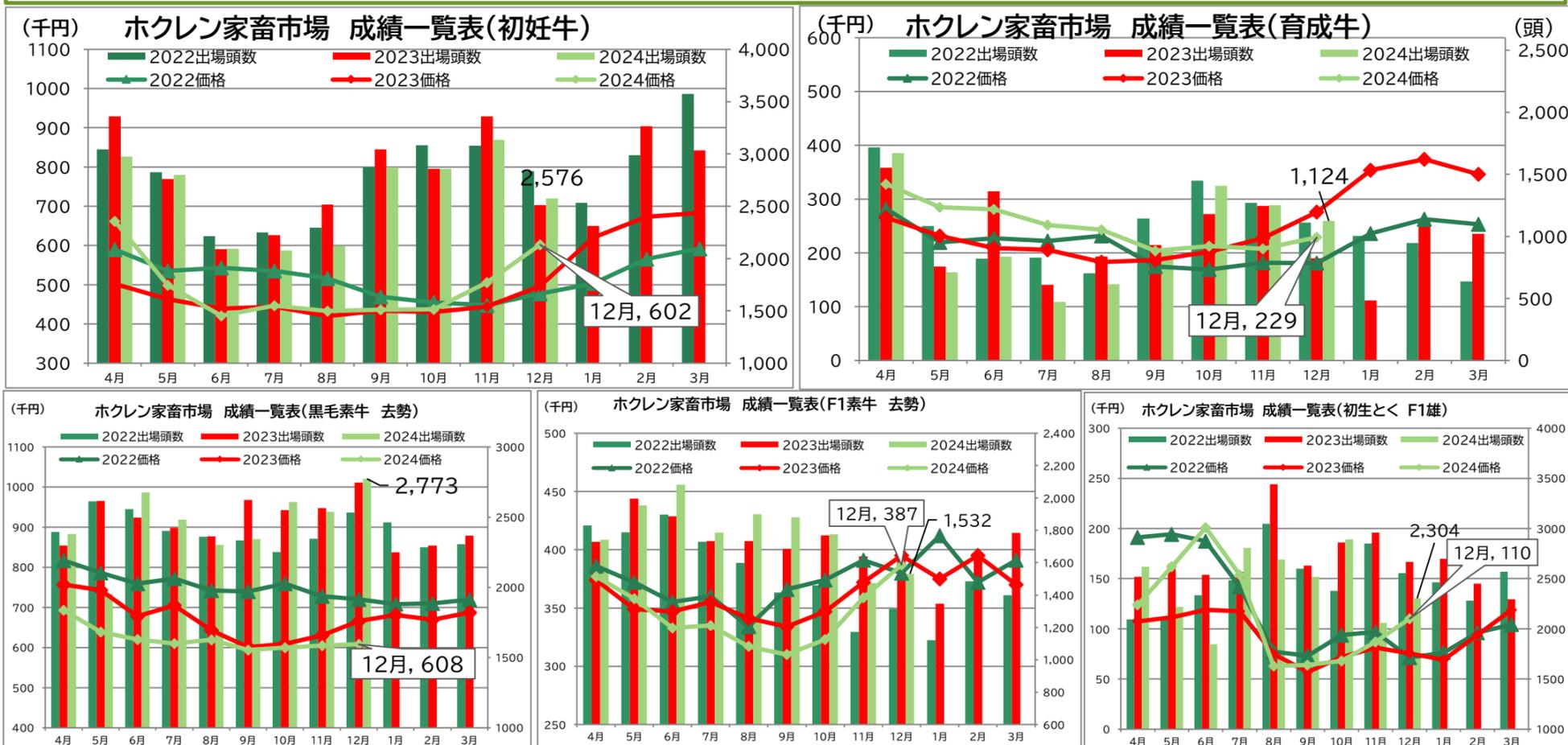
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)12月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は602千円(前年同期比121.4%)、育成牛価格は229千円(同83.0%)、和牛素牛(去勢)価格608千円(同91.3%)、F1素牛(去勢)価格は387千円(同98.0%)。初妊牛は8カ月ぶりに60万円以上となり、育成牛は8カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は21千円(同338.6%)と、5カ月ぶりに20千円を上回ったものの低水準で推移している(グラフ無し)。

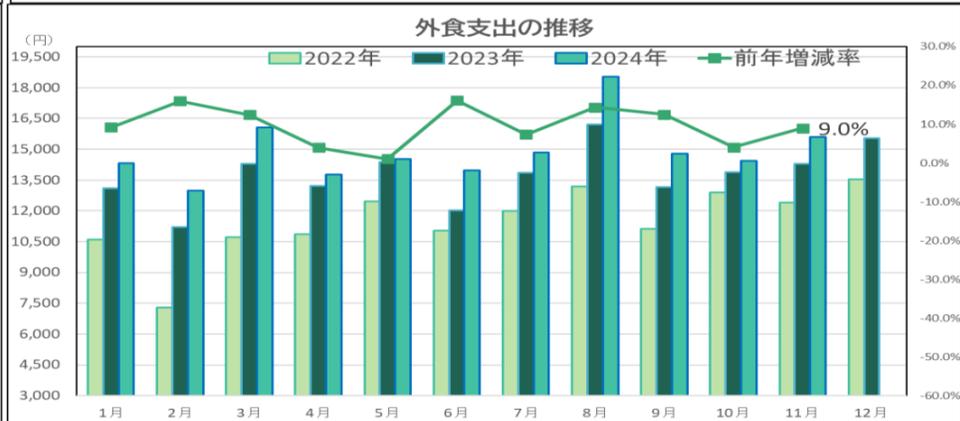
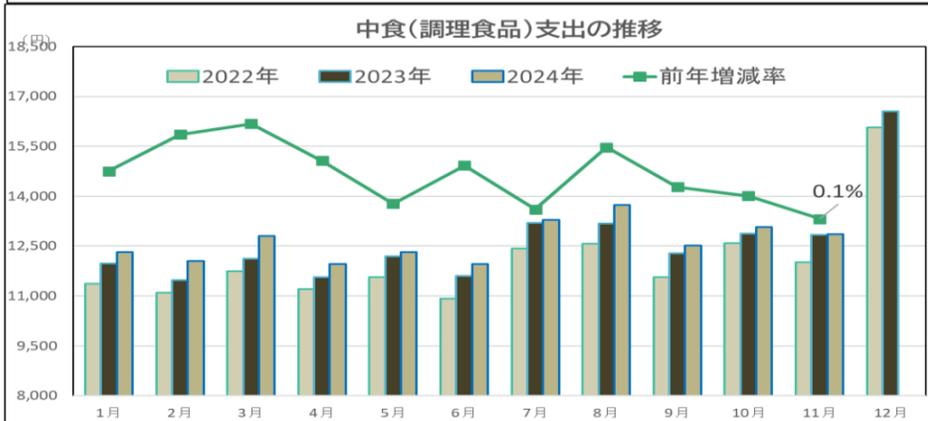
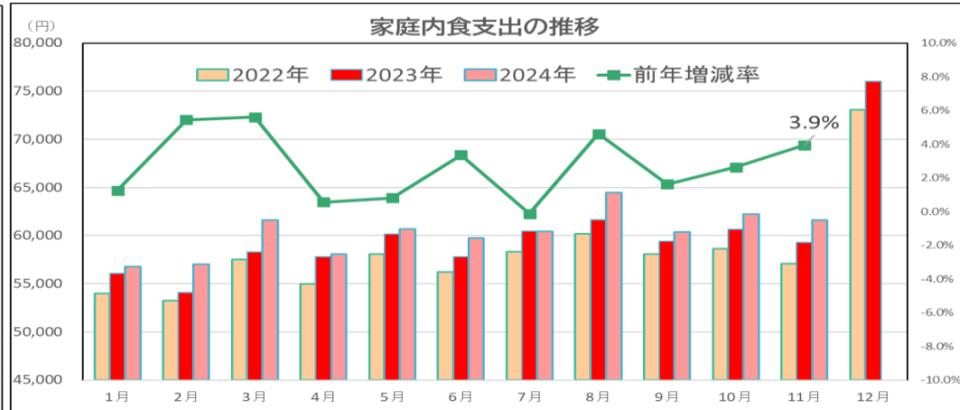
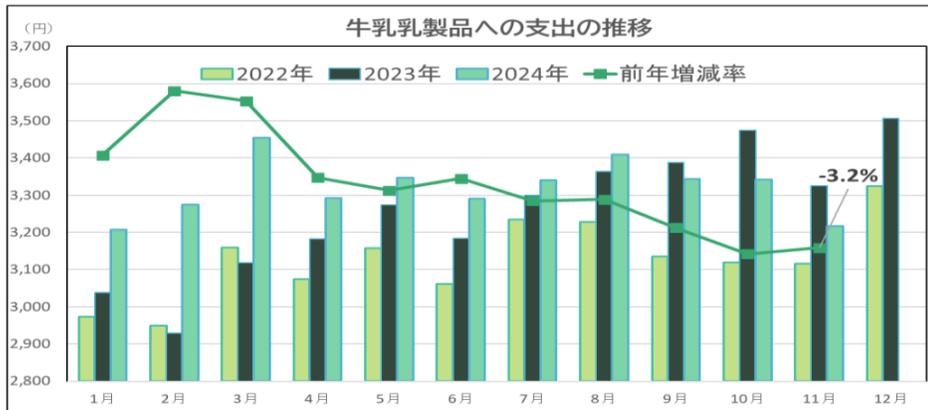
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同102.6%、育成牛:同136.6%、F1初生(雄):同86.4%、和牛素牛(去勢):同100.9%、F1素牛(去勢):同91.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

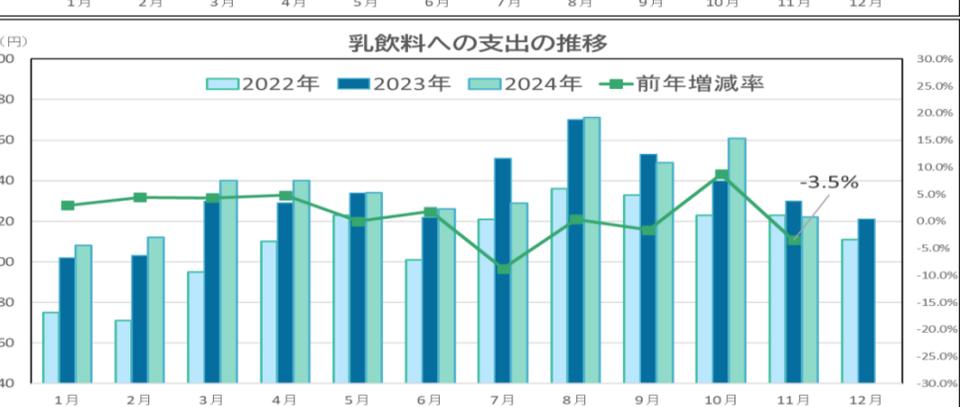
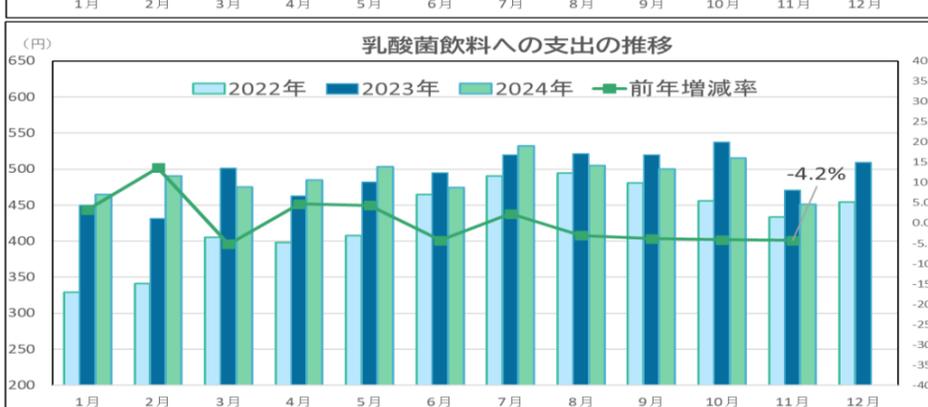
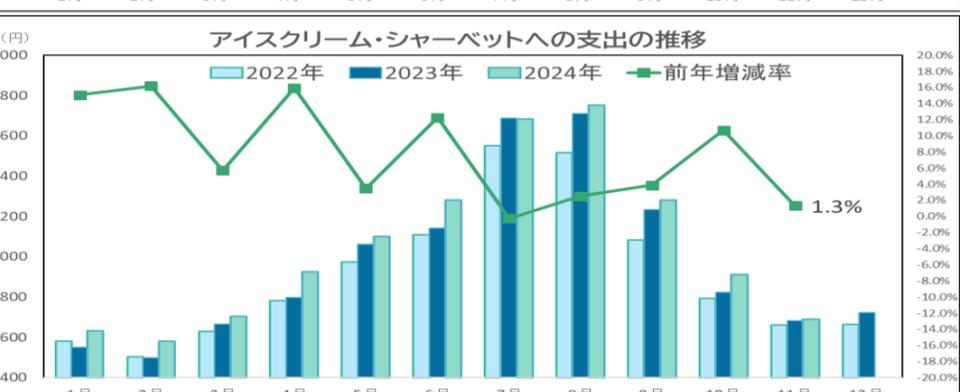
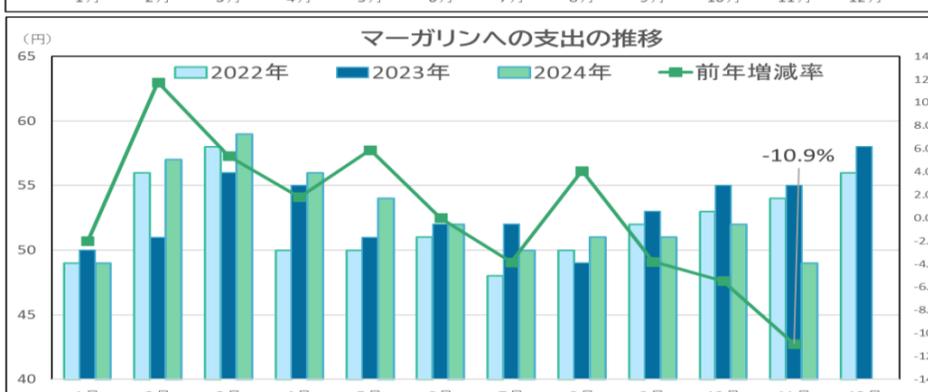
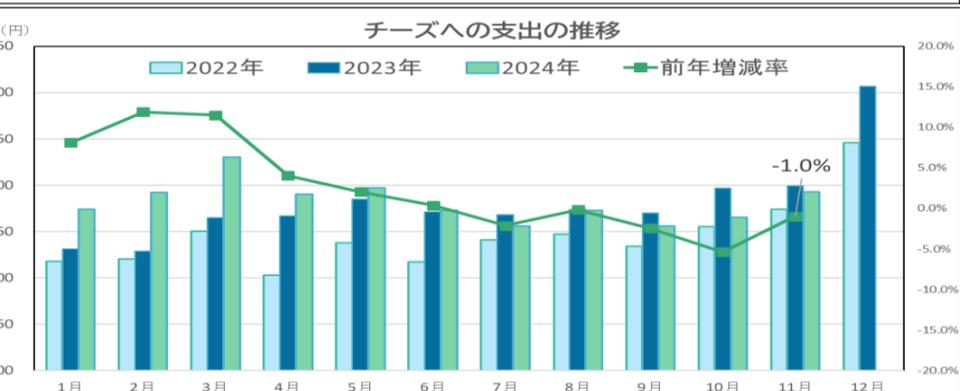
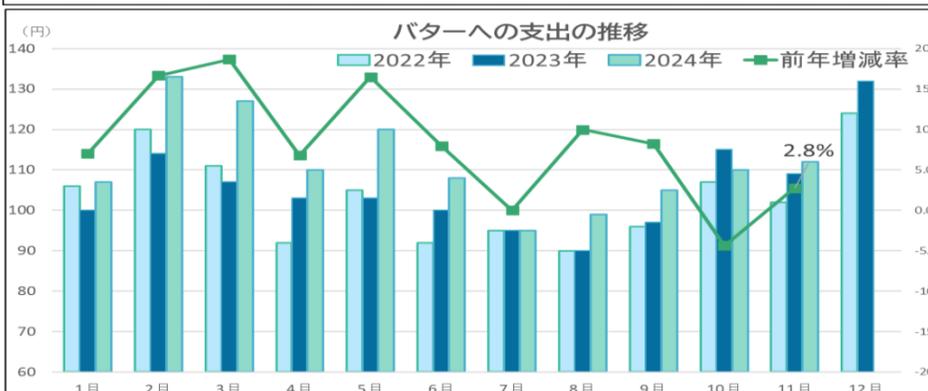
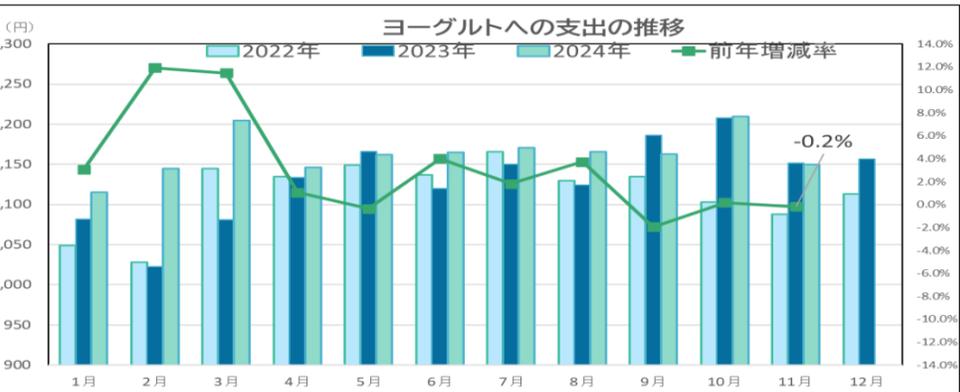
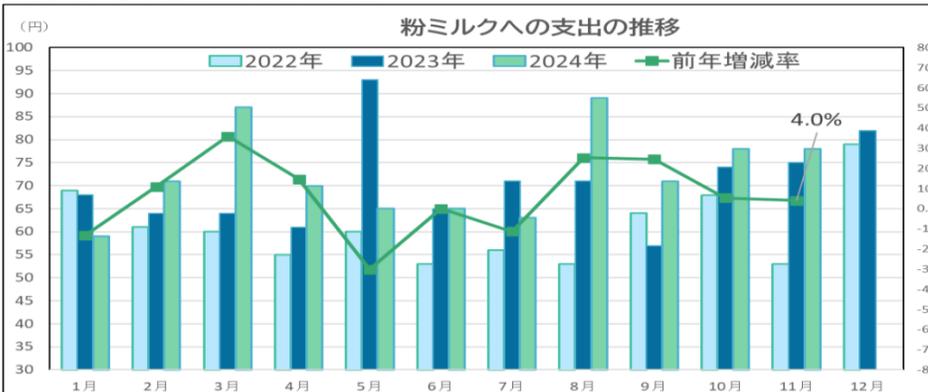


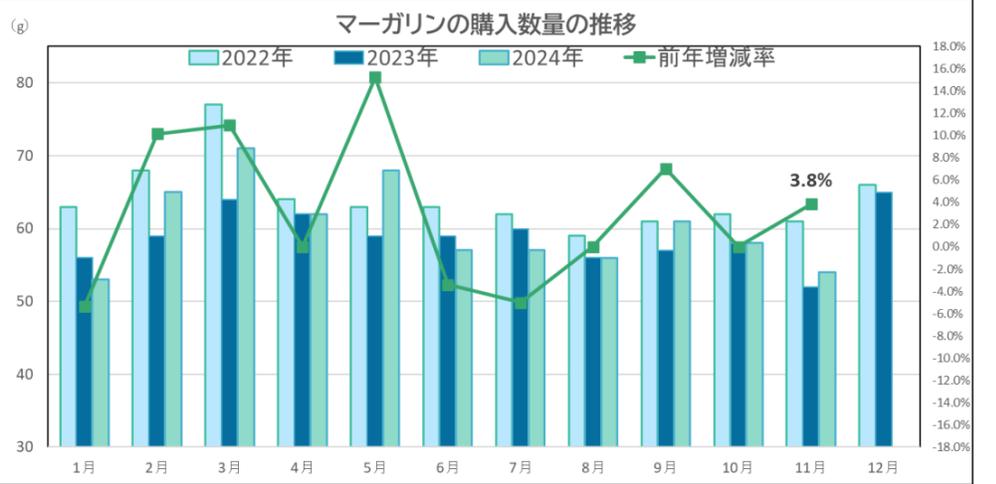
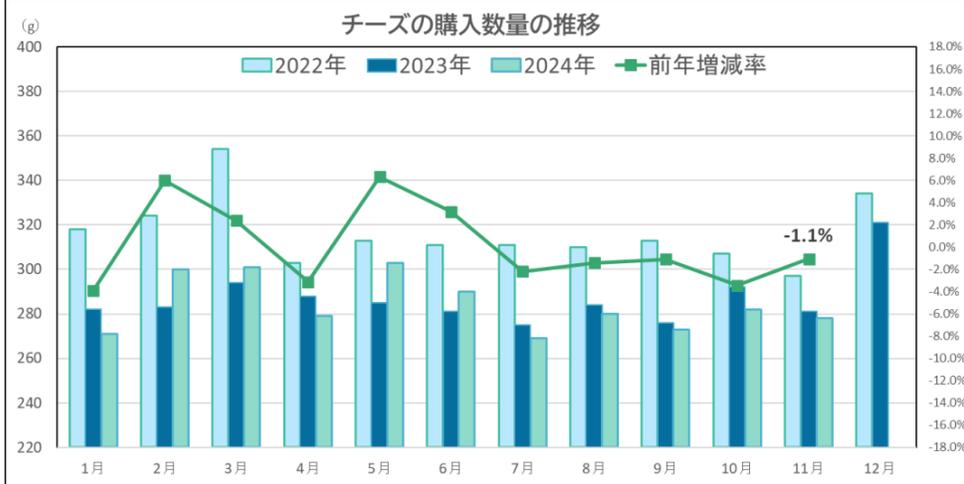
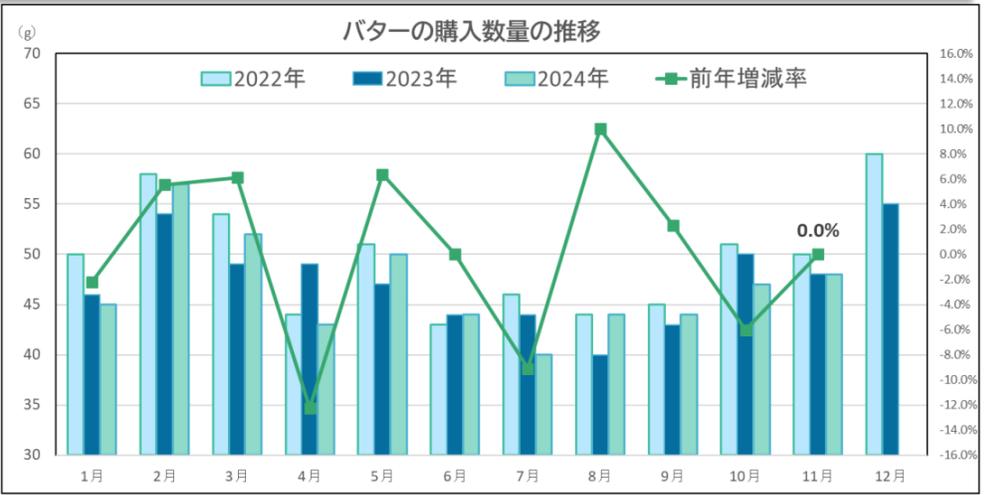
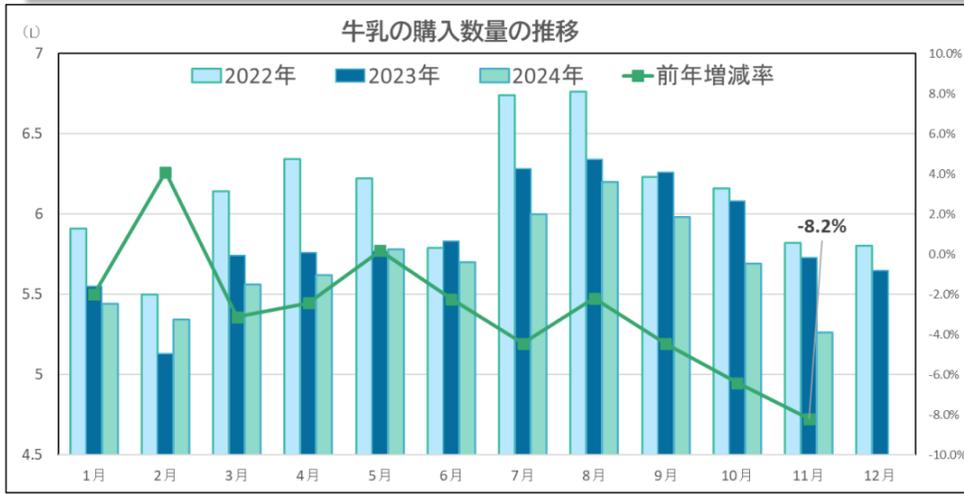
【家計支出の動向】

(1)11月の支出額前年比について、外食109.0%、中食100.1%、内食103.9%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は104.2%となった。  
 (2)牛乳乳製品の支出額も前年比96.8%(うち牛乳91.8%、乳製品100.1%)と3カ連続で前年を下回った。  
 (3)なお、購入量は、牛乳91.8%(1世帯当たり5.3L)と6カ月連続で前年割れ、チーズは5カ月連続で前年割れ、バターは2カ月ぶりに前年超えとなった。  
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



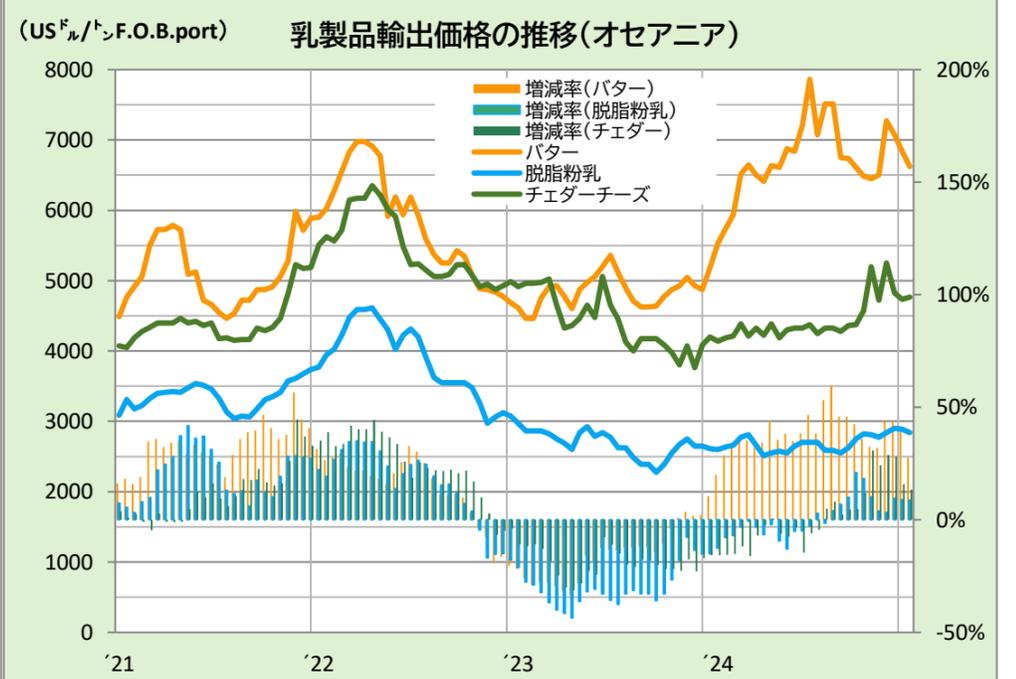
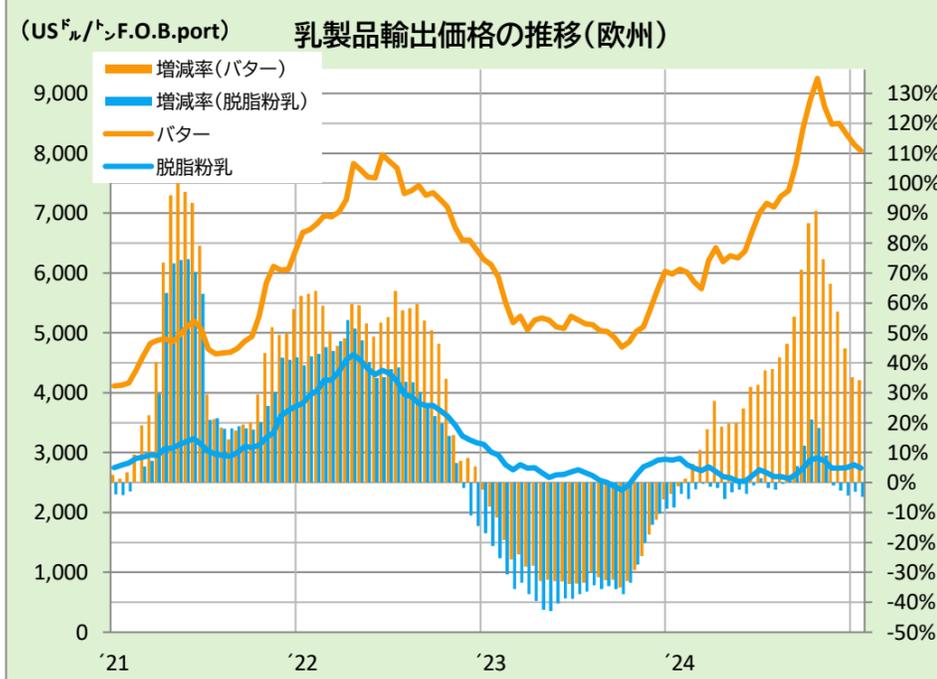


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(11月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター8,313ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,900ドル/ト、バター7,075ドル/ト、チェダーチーズは4,825ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」